

第3章 都市づくりの基本理念

本章では、本計画の全体を通しての目標となる将来都市像と都市づくりのテーマ、将来人口とともに、その実現に向けて茂原市が目指すべき将来都市構造を示します。

1

都市づくりの目標

(1) 将来都市像

将来都市像は、本市が目指す概ね20年後の姿を示すものであり、これからの都市づくりを進めていくにあたって、市民・事業者・行政などの各主体で共有すべき目標として位置づけるものです。

本計画の将来都市像については、本市の最上位計画となる「茂原市総合計画」で掲げられている将来都市像『未来へつながる「交流拠点都市」もばら』を踏襲します。

総合計画の将来都市像を共有することで、都市づくりに係る他分野との連携や整合性を確保し、市全体で一貫性を持った都市づくりを推進します。

《将来都市像》

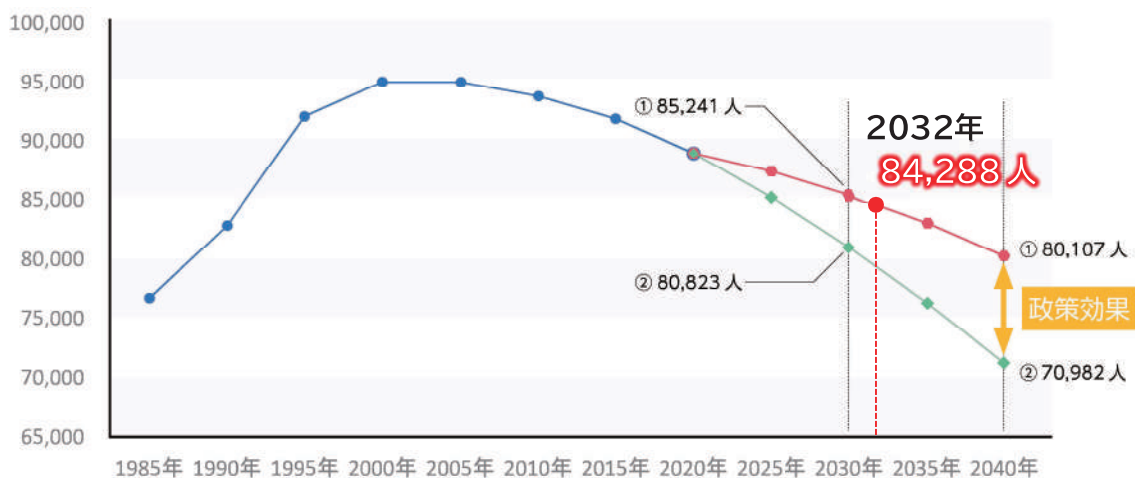
未来へつながる「交流拠点都市」もばら

(2) 将来人口

本市の将来人口は、これからの都市づくりを進めていくうえで確保すべき市街地の規模など、これからの本市の土地利用のあり方に大きく影響する目標となります。

そのため、将来人口についても、将来都市像と同様に「茂原市総合計画」で示されている人口の見通し(目標人口)との整合を図り、本計画の目標年次である令和14年(2032年)時点で約84,000人^{*}の人口規模の確保を目標として設定します。

【参考】茂原市総合計画で示されている人口の見通し



^{*}2030~2035年の目標人口の推移(線形近似 $y = -476.4x + 85717$)から2032年の推計値(84,288人)を算出し、千人未満切捨てにより設定。

(3) 都市づくりのテーマ

将来都市像である『未来へつながる「交流拠点都市」もばら』の実現を都市計画分野から支えていくために、上位計画での位置づけや本市の主要課題などを包括した、本計画を横断する基本的な考え方として、これからの本市が目指すべき『都市づくりのテーマ』を3つ設定します。

また、本市の都市づくりがSDGsへどのようにつながり、貢献していくのかを明らかにするため、それぞれの都市づくりのテーマごとに関連するSDGsのゴールを位置づけます。

《都市づくりのテーマ①》

誰もが住み続けることができる 安全・安心な生活環境づくり



人口減少・少子高齢社会を迎えた中で、本市が将来にわたって持続可能な都市として維持・発展していくためには、都市を支える定住人口の確保が必要不可欠です。

子どもから高齢者、障がいを持つ方まで、誰もが茂原市に住みたい、住み続けたいと感じられるよう、生活利便性が高く、自然災害への備えも充実した、安全・安心で快適な都市づくりを目指します。

《都市づくりのテーマ②》

地域の中核都市にふさわしい 活力・にぎわいづくり



本市は、日常の買い物や就業の場として、長生・山武・夷隅地域の中核的な都市としての役割を担っていることから、本市のみならず広域に波及する都市機能の維持・充実が求められます。

茂原駅をはじめとする鉄道駅周辺や、国道128号などの幹線道路沿いに形成されている沿道型商業地、インターチェンジ・スマートインターチェンジ周辺の産業用地など、本市の活力とにぎわいを支えるエリアでの更なる都市機能の充実を目指します。

《都市づくりのテーマ③》

茂原の歴史・風土・文化を活かした 魅力づくり








持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けて、豊かな自然資源の保全・管理と都市的土地利用との調和など、地球環境に配慮した環境共生型の都市づくりが求められます。

本市が有する歴史・文化・風土を、地域の魅力として積極的に保全・活用していくことで、ゆとりと豊かさを実感できる、魅力ある都市づくりを目指します。





将来都市像の実現に向けて、本市の特性や課題を踏まえて「これから目指すべき都市の骨格」をイメージ化した『将来都市構造』を設定します。

将来都市構造は、「拠点」、「ゾーン」、「軸」の3つの要素で構成することとし、それぞれの役割を明確にしたうえで設定します。




- ◆ 「拠点」は、日常生活や都市活動の中心として、様々な都市機能や人々が集まる、求心性を有したエリアを示します。
- ◆ 生活と交流を支える鉄道駅周辺の拠点性の確保や、都市の利便性を支える幹線道路沿道型拠点の形成を図るとともに、観光など地域の特性を活かした多様な拠点を設定します。

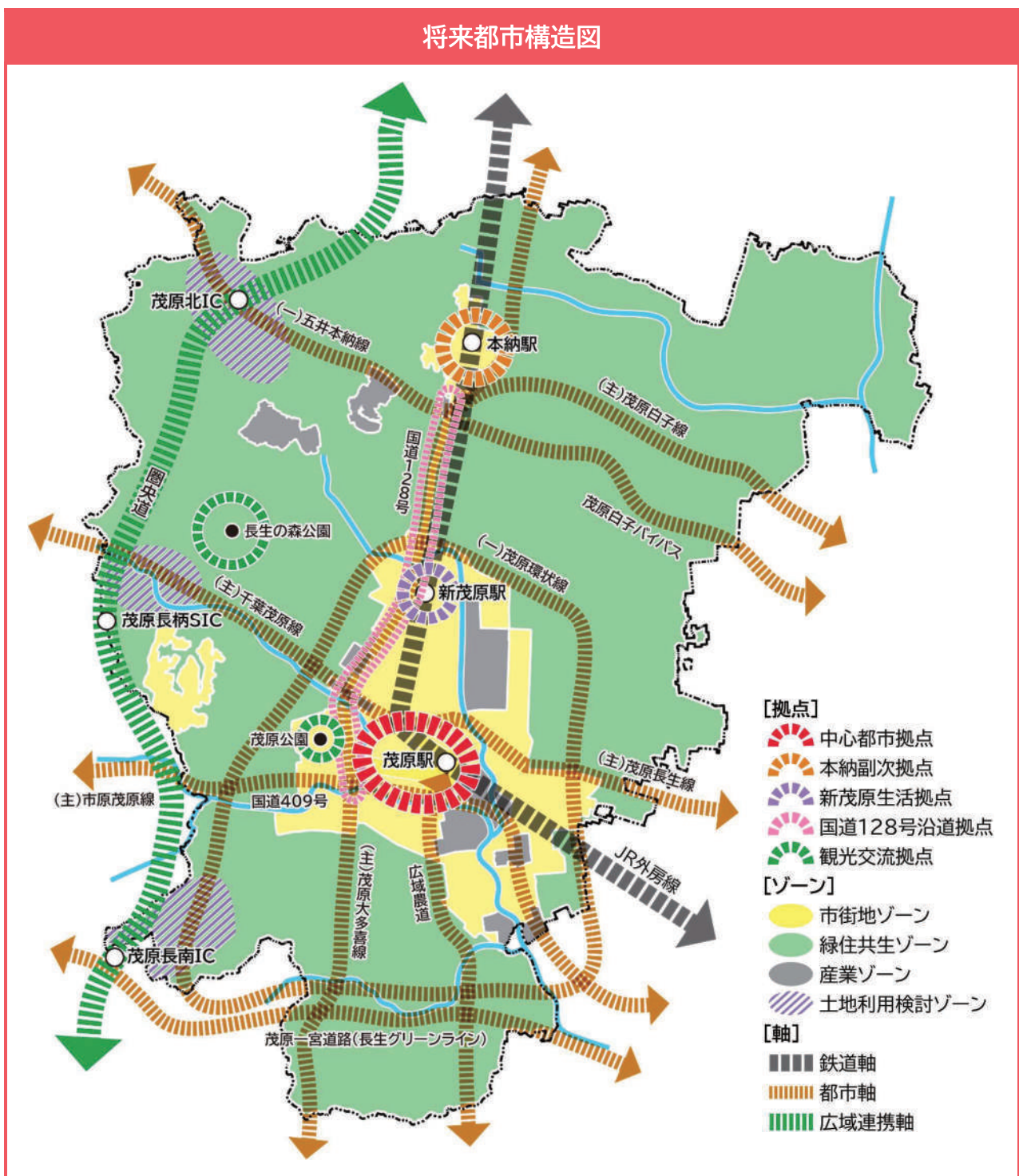
名 称	役 割
中心都市拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 茂原駅周辺において、商業・業務、行政・文化、医療・福祉など、広域に波及する多様な都市機能を有する本市の中心拠点
本納副次拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本納駅周辺において、中心都市拠点と相互に補完・連携する市北部の核として、都市機能の充実と新たな活力の創出を目指す拠点
新茂原生活拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新茂原駅周辺において、地域住民の生活利便性を支える商業・交通機能等を有する拠点
国道128号沿道拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国道128号沿道において、市民のみならず周辺都市の利便性とにぎわいを支える商業・業務・サービス機能を有した沿道型拠点
観光交流拠点 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市の歴史・文化資源や公園・緑地を活かした、市内外から多くの来訪者が集まる交流拠点

- ◆ 「ゾーン」は、同じ特性・役割を有する連続した土地利用の広がりを示します。
- ◆ 既存市街地を中心とした都市的土地利用と豊かな自然環境の調和に向けたゾーンを設定します。

名 称	役 割
市街地ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 用途地域が指定された既存市街地で、市民生活の中心的な居住地及び商業・業務地として、その利便性と安全性の確保・充実を図るゾーン
緑住共生ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農地や丘陵地など、本市が有する豊かな自然環境の保全・管理・活用を図るとともに、それらと調和した居住地の維持・改善を図るゾーン
産業ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本市の産業振興を支え、立地企業の操業・営業環境の維持と更なる充実を図るゾーン
土地利用検討ゾーン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 圏央道インターチェンジ及びスマートインターチェンジに近接する広域交通利便性を活かし、新たな産業や観光交流拠点の創出など、新たな土地利用を検討するゾーン

- ◆ 「軸」は、人やモノの円滑な移動を確保する主要な動線を示します。
- ◆ 本市と都心・周辺自治体などの都市間、市内の居住地と拠点間の円滑な移動を支えるネットワークの形成に留意した軸を設定します。

名称	役割
鉄道軸 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道による広域移動を支える鉄道網
都市軸 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市の骨格を形成する主要道路網
広域連携軸 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車による広域移動を支える圏央道



『伝えたい 茂原の魅力』 茂原市立東中学校2年 鈴木 萌七さん

